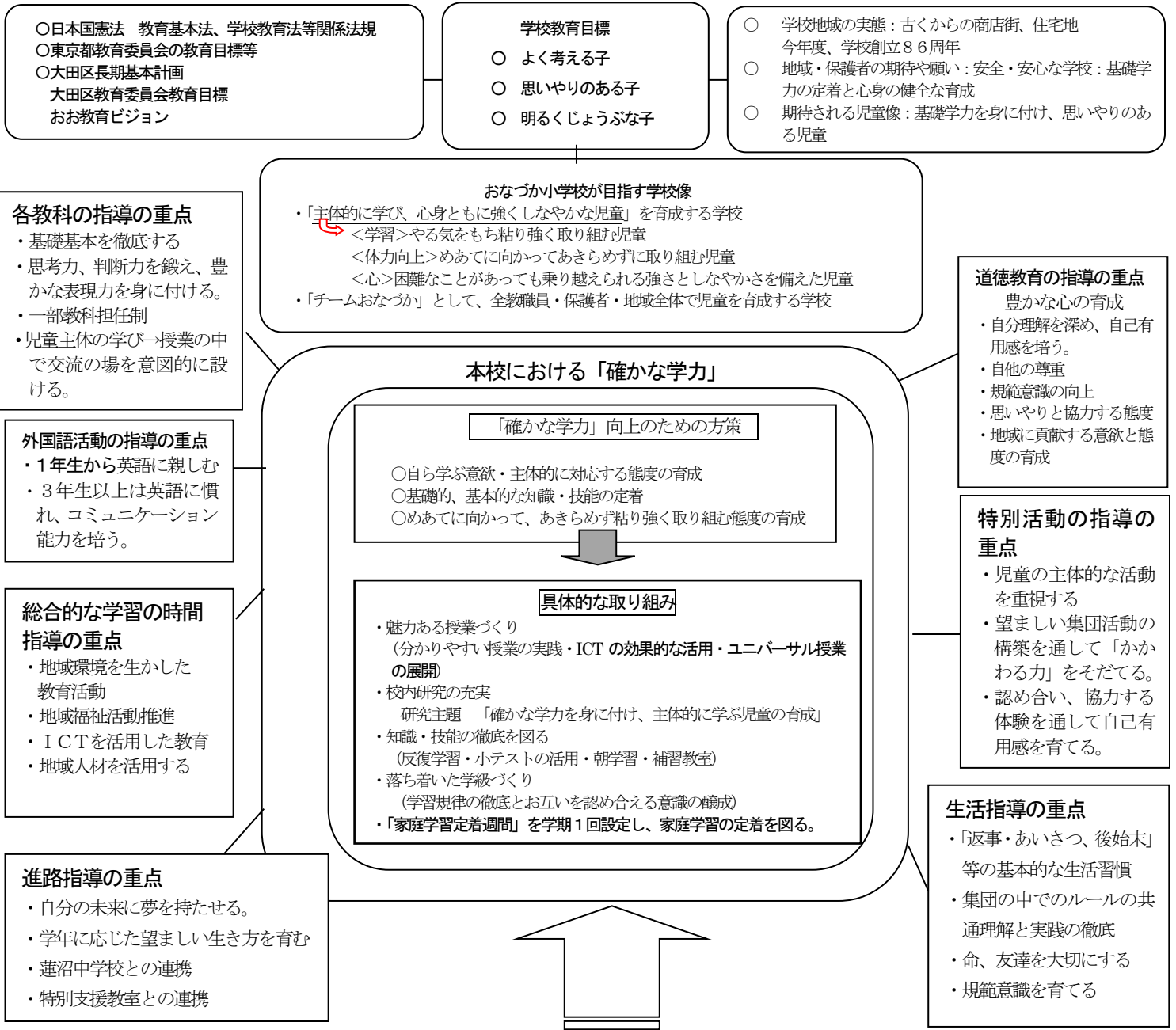


# 令和4年度 学力向上を図るための全体計画



## 本校の授業改善にむけた視点

指導内容・方法などの工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習活動や問題解決的な活動を重視し、学習への意欲や関心を高め、自ら考え、調べ、表現する力の育成を図るとともに言語活動の充実を図る。</li> <li>・交流など、児童相互の学び合いの場を設定し、図や言葉で自分の考えを表現、説明させて、よりよい考えに気付かせる。</li> <li>・一部教科担任制により教材研究を深め、効率のよい指導を目指す。</li> <li>・単元末のワークテストを「教員の指導の成果」と捉え、60点以下の児童に補習を行い、80点を目指して再チャレンジさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TTや少人数指導、教員の特性を生かした交換授業等を行い、子ども一人一人の能力や個性に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・問題解決のプロセスを重視し、一人一人の自力解決や児童相互の交流を通し、思考力・判断力・表現力を育てる。</li> <li>・学習効果測定や都の学力向上調査の検証を行い、授業改善推進プランを生かした実践を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童を育成するために、校内研究では、①めあてを明確にすること②既習事項を活用すること③問題解決に至る見通しをもたせ、自力で解決させること④話し合い活動を意図的に取り入れること等を盛り込んだ授業づくりに取り組む。</li> <li>・教員のICT活用能力の向上を目指して、年に3回の校内研修と校内OJT研修の充実を図る。</li> <li>・特別支援教育の教員によるOJT研修の充実。配慮を必要とする児童への指導方法や対応方法を、通常の学級のユニバーサルデザインの授業に生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導展開に応じた評価場面を設定する。</li> <li>・具体的評価目標の設定</li> <li>・学校公開のアンケートの記述式部分を反省し、検討して結果を職員会議で共有し、反省をもとに授業改善していく。</li> <li>・区などの学力調査結果を地域教育連絡協議会に報告し、学力向上のための意見を求めて、改善策を講じ、保護者に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部「スクールサポート おなづか」を立ち上げ、地域の方の協力を得て活動を進めている。 (①バイオリン教室 ②夏わくイベント ③子ども見守り隊 ④お話の会など)</li> <li>・「返事・あいさつ・後始末」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「家庭学習週間教科週間」を設け、全教職員で取り組む。</li> <li>・民生児童委員会の方との情報交換会を設け、地域と連携し、児童の健全育成を図る。</li> <li>・子ども家庭支援センターとのケース会議の充実</li> </ul>